

ユニバーサルデザインガイドラインに対する意見と反映状況一覧（令和4年度第2回UD協議会）

| No. | 掲載場所 | 頁 | 協議会委員の意見要旨 | ガイドラインへの反映 |
|-----|-------------|---|--|--|
| 1 | 利用者の属性 | | 外国人イコール英語というのはあまり意識しすぎない方がよいのではないか。やさしい日本語やローマ字表記でかなりの部分に対応できる。 | ・外国人の項目に「わかりやすい言葉」を追記した。 |
| 2 | 人による適切な情報提供 | | 掲示物が増えていくということについては、「何か聞かれる前に掲示しておこう」となってしまうがちだが、質問をすべてなくすることはできないし、助けが必要な人にとっては、むしろ質問しやすいことが大切だと思う。 | ・ガイドラインを活用した所管課との協議において、「人による適切な情報提供」の必要性を伝えていく。 |
| 3 | (第5章説明) | | 章冒頭の文章が分かりにくい。章の始めの部分なので分かりやすい方がありがたい。 | ・ガイドラインの主な利用者となる所管課に文章のわかりやすさについて確認して対応した。 |
| 4 | (第5章説明) | | 章冒頭の部分において、板橋区として、なぜサインをユニバーサルデザイン化したいのかという思いを込めてほしい。 | ・「サインとは」において、サインが「もてなしの心」を表すものだという区の根本的な考え方を示した。 |

| No. | 掲載場所 | 頁 | 協議会委員の意見要旨 | ガイドラインへの反映 |
|-----|-----------------------------|---|---|--|
| 5 | 利用者の属性 サインの伝達方法 を選択する | | サインは主に視覚に訴えるもの。サインのうち、視覚障がい者がこれを見逃したら大変だなというものは、音声で説明をしてもらいたい。特に、警告する内容について、視覚的にサインを出しているものは音声でも分かるようにしてほしい。合理的な配慮をぜひお願いしたい。 | ・「利用者の属性」の「視覚障がい者」や「サインの伝達方法を選択する」の「多様な利用者に情報を伝える場合には、複数の伝達方法を組み合わせる」という考え方を記載するとともに、UDチェックにおいて協議していく。 |
| 6 | 全体的 | — | 普段は上手くサインが機能していたとしても改修や建て替え工事等が始まると、一気に元々の空間が変わってしまう。施設の更新時や改修時のサインについても注意が必要だと思う。 | ガイドラインを活用した所管課との協議において、本ガイドラインの趣旨や「運用開始以降のに考えること」の必要性を伝えていく。 |
| 7 | 全体的 | — | 他の自治体がつけているサインのガイドラインは、寸法や字体・配置など設計図のようなものが書かれているが、このガイドラインは「サインの性能を高めるためにこういう視点を持ちなさい」という考え方が書かれている。このガイドラインはどう使い、どう事業化していくのか。 | ・本ガイドラインは、職員研修の教材として活用するほか、本ガイドラインに基づいた「UDチェック」という仕組みにおける所管課との協議の中で活用していく。 |